

発行所 西蒲原郡 卷町中央公民館 編集人 北川 郡司 印刷所 北洋印刷株式会社

卷町議会第四回臨時会

漆山地区

分立請願を否決

漆山地区の分立請願を諮す、巻町議会第四回臨時会は、去る九月十七日巻小学校図書館に於いて、二万九千の町民注視の中に開会された。新生巻町の発展に、一大障壁を予想されるこの政治問題に対して終始慎重に論議が交わされ、新たに特別委員会が設置され、この請願は否決された。本文は、町当局より示された本会議録の中より論議の要旨を拾録したものである。(石山)

午前十時三十分開会 議員定数 三十名 出席議員 二十九名 開会後、漆山地区選出議員に対し、本請願に対する意志表示が求められ

漆山の将来を考慮し、この請願書は、百方言を一句に集約したものである。何卒、吾々の要望する分町を認めて戴きたい。これに対し各議員より分町反対意見が述べられ

は保苗としたい。町長は合併五ヶ年計画について、漆山地区住民に、充分納得させよう努力すべきである。漆山地区の住民感情を充分把握するため特別委員会を設置して分立問題解決に当るべきだ。

分町は絶対に認めべきではない。数ヶ月に亘つて協議研究して合併したのであり、局部的にいろいろの問題が起るのには当然である。それを取りあげて、合併して半年も経たないのに分町させてくるとは常識を逸している。今ここで白黒を決す

この間再三、漆山地区選出議員より、分町請願の採択要望の発言あり。吾々は漆山地区から選出されたのであり、立場上、地区住民の世論や意見に従うのが当然のことと思う。吾々も漆山の現状を伝え、善処方を要望して来たが、今日まで何等の措置なく、空に浮かして置くとは温かみがない。以上の如く熱烈な討議を重ね、中食休憩に入る。

午後一時二十五分再開、直ちに特別委員会設置について表決に入り、多数を以て設置することに決定。委員数は十五名とし選任を正副議長に一人、このとき漆山選出議員より発言あり。只今、特別委員会設置の問題は、分立を認めない円満妥結のためであつて、吾々の請願と全然相反するものである。吾々はこれを以て退席させて戴きます。漆山地区選出議員、尾張部宇一外五名(全員)退席。

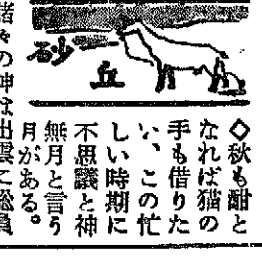
議事は進行し委員の選任のため暫時休憩。再開後副議長より特別委員の指名報告があり、堀秀寛、山賀辰二、(二頁中段につづく)

漆山分立に関する請願書(全文)

町村合併促進法に依り去る一月一日漆山村と巻町外四ヶ村との合併に依り巻町となり、新しい自治体として発足したのであります。今回次のような理由により漆山地区の分立に関する請願を致す次第であります。即ち合併前の研究段階にあつては、合併により町村規模を拡大しその組織及び運営を合理化し、且つ効率化する事によつて住民の福祉が増進されることになりました。此の故に旧漆山村に於いては一部強力なる反対意見がありました。合併により漆山地区共々全住民の福祉が増進されることを予期した多数の意志により合併が成立したわけであり、しかし合併後の巻町に於ては合併初期に於ける全般的な若干の負担増は止むを得ないとしても、漆山地区に於ては全体として六〇%も大巾に増税しているにも拘らず、反面一部地区では昨年度より大巾に減税されて居ります。更にこのような各地区的負担の極端な相違は漆山地区が水稲単作の農業形態であるの

大きい漆山地区の負担が増加されることは火を見るよりも明らかであります。町村合併は経済状態経営様式等の近似した地域環境を同じうする人たちが合併してこそ全体の住民が合併の良さを味い平均に利益を享受出来るのであつて前述の如き環境の極端に異なる地域が合併した場合に不平等となり特定の地区のみが永久に負担の増大に苦しむことは明確に予測され不幸にしてその地区が漆山に該当されると思ふ時、私たちは到底耐え難いものを感じるものであります。右の理由により私たちは漆山地区住民は一時的不利不名誉を敢て忍んでも茲に巻町との分立を決意し連名を以て請願致す次第であります。代表者住所氏名 新潟県西蒲原郡巻町 大字馬堀 本田 次郎 大字漆山 町田 高作 大字桜林 田村 太三郎 大字漆山 細山 沢一 大字漆山 小林 清三郎 大字漆山 石山 重市郎 大字漆山 小林 誠司 大字漆山 古沢 栄作 尾張部宇一

秋も耐となれば猫の手も借りた、この忙しい時期に不思議と神無月と言ふ月がある。諸々の神は出雲に総員集合とか。出雲の会議は戸籍調査会、神ながらの国勢調査宜しく、春以来眺めてきた娘若衆の引合せ会議とか。それらも道理、神の御帰還の十一月は今も結婚シーズンなどと呼ばれて、神々の又御多忙の月であるとか。無(サツ)かし豊年太鼓でお祭り申した神は手拭く会議を進められ、見るも華かな数々の御目出度が増えらんと申されたとか。それにしても思ふことは、下界に出て来る諸々の出来事ではある。豊年満作はかけ声に終つたが、声をかけられた嫁入り婚入りの調度のほどは如何にと。これらも序に大神日さくとも出にや到底曲らぬ身の程知らぬ意地の張り合い。世の笑い草とならぬに如かず、特に農村人よ心して。





町の最高長壽者 阿部シゲさん

をたずねて

九月十五日は敬老の日、既に巻町では、漆山地区、峰岡地区、巻山地区敬老会の催しは...

Table with columns: 順位, 姓名, 氏名, 生年月日. Lists names and birth dates of elderly residents.

道徳の類は其の極に達し、憂いある者は情操教育の必要性を強調している...

四書案内 読書の秋とともに巻公民館図書室では夜間の貸出を日曜、水曜に...

時間厳守で明るい集會



クラブ紹介 NPKクラブ

巻町並木

昭和二十四年と云いば戦後の混乱の状態は徐々に納り、農業生産活動の兆しが村々にぼつぼつと見え始めて来た...

生じて来た。クラブ員が増えゆくことは心強いことであるが、一方クラブとしての統一性がだんだんかけて来た...

七年の歳月にわたつたこのクラブも今や仕上げの時期に達しようとしている。飽かず、ひたすら益々農業経営の改良発展のために精進を期待して止まない。

美術の秋を迎えて 巻パレットクラブ 池田が「二科」へ入った。村山は今年もまた「一水会」へ入った...



台風

はざかけをしていいた僕はおじいさんから台風がくるよ、といわれ僕はあたりを見まわした。

稲刈り 六のー 阿部 良平 僕は稲刈り休み前...

玉木君(相撲) 優勝 十月十一日より四日間、互つて明治神宮外苑を中心として...

收穫のさ中に思うこと

西村 欣策

豊作と云えば米所西蒲原が話題になり、西蒲原の中心である巻町はいつも話題の中に忘れられない。史上空前の大豊作と予告された時、新聞社や放送局は巻町を指してドツとやつて来た。そして農家は豊作景気に浮かれて、自転車を買って、バイクに乗り、電気洗濯機を戸毎に買い、オート三輪車は農道を走り廻る。予約前渡金で倉が建ち、若いものは携帯ラジオや高級カメラをいじくり回し、尙且金があまつて使い道に苦しんでいる、とあることないことましく立て全国に報道し、放送して終つた。果してそうか、それは私達この土地に生え抜いているものが一番良く知っている。成る程かけ声に浮かれた一部の人は、私達農村人の頭の中には予約前渡金や、紙上豊作に調子を合せるには余りにも重いものがかかかつて来た。予約金は決して只儲かつたものではなかつた。前渡しという手際のい

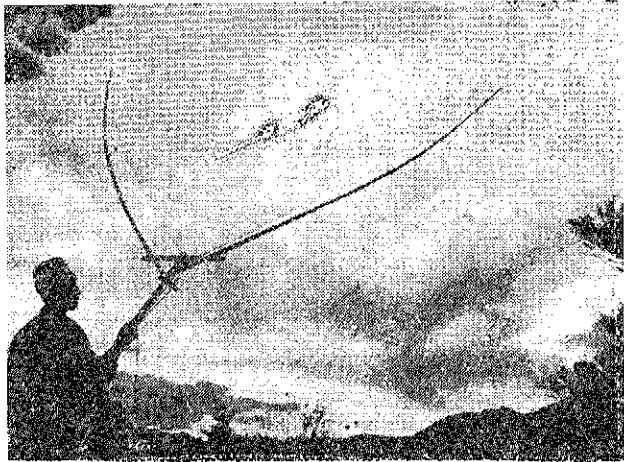
い青田売りである。以前なら着実な農家は青田を売るといふことは「農家の恥」だとしていたものだ。しかも俗にいう自由売りである農業手形その他に残されていく。たとえ豊作であつても三割近い米の金を春から八月迄に費い果した農家の多い農村の「ふところ」は秋と共に皮算用で膨れ通る。予約前渡金で倉が建ち、若いものは携帯ラジオや高級カメラをいじくり回し、尙且金があまつて使い道に苦しんでいる、とあることないことましく立て全国に報道し、放送して終つた。果してそうか、それは私達この土地に生え抜いているものが一番良く知っている。成る程かけ声に浮かれた一部の人は、私達農村人の頭の中には予約前渡金や、紙上豊作に調子を合せるには余りにも重いものがかかかつて来た。予約金は決して只儲かつたものではなかつた。前渡しという手際のい

中業者ではフンダンに使っている。その古でも見つければ罪悪でも犯したよりに離れてられる。さうやかな農作はかけ声に終つてしまふし、まごまごする税金は吊り上り、来年の生産はどうするかと大きな問題が旧正月頃にはつきりと出て来るであろう。見果てぬ夢として見続けられたように消えてしまふ。まいそである。広い農村の隅には一台や二台の電気洗濯機であれば東京から懸々写真を撮りに来る。バイクやオート三輪車は町の小

次のは日は十一月三日
文化の日
自由と平和を愛する国に、文化の日のあることは当然でしょう。美術、音楽、スポーツ、あるいは読書週間や学術、芸能の催等、多年この日を中心に催されて来た慣習を尊重して十一月三日を文化の日と定められたものである。

打掃施設費	三、一〇二円
宣伝費	七、三六〇円
會費	二、〇〇〇円
醫固費	八、四一〇円
會費	二、〇五〇円
計	六九六円
計	四四一、〇〇七円
差引翌年へ繰越額	二、二〇〇円

原稿募集
町民の声
隨筆・小品文
短歌・俳句・詩
その他



獵季近づくと

仁箇堤のさかぶち

秋も終りに近き、何時とはなしに稲田が空になる。山は紅葉に色づき、すゝきや雲が美しい。しかし、やがて冬が駆足でやつてくる。冷い雨が多くなり、風も吹き荒れる。刈りとり終つた寂寥たる蒲原湿地帯と、鴨の渡来は、きり離すことのできない関係にある。初冬に入ると夜はツキ場で餌をあさる鴨の群が、風の安息地をこの池に求めてやつてくる。その数が次第にふえてやがて獵期をむかえる。

短い冬の陽が暮れて角田山が黒い裾を張つたように、いつかたわると、今迄鳴きざわめいていた鴨が突然鳴りをひそめる。まもなく水を離れるすさまじい羽音と共に群をなして降つたいにあげてくる。松木立にやぐらを組んで構えている獵師は、頭上を過ぎる瞬間、Y字形の網を投げる。目と腕の機敏な動作によつて捕える野趣に富んだ鴨捕りの情景は、全国的に珍しい。然しこれも、盪湖周辺や他の湿地帯のツキ場で今尙行われている、呼び鴨を用いて、猟銃で射つ方法と共に

仁、土地改良の進展と共に衰亡してゆくもの、一つである。人々はこのさかぶちを見て、何時頃からどうして初められたか尋ねてみたくなるに違いない。だが恐らく満足すべき説明をしてくれる人は居ないだろう。常民の文化は、いつの間にか芽え、伝承され、無関心のまゝほうり去られてゆくものであるから。

【編輯後記】
又もや九月号が一ヶ月も遅れてしまい、重ね々、申訳なく思いますが、編輯者の怠慢と深くお詫び申し上げます。今月は、思い切つて遠山地区の分立請願に関する臨時町会の模様を拾録させて戴きました。新生巻町発展のためのお互いの糧にと思い、町政を皆懐と共にな身に知つて戴きたいとの善意をおくみとり下さる。遅刊のお詫び。尚、回答は都合により、しばらくお待ち願います。



(9)